

平尾篤徳 ひらお ちか 文人畫家。文化五年十月二十一日陸奥國弘前生れ、明治十二年二月二十一日没（六六―八二）。謹亮致、通稱八三郎、初二郎。別號宏齋、平雄山、若川、雄山等。少時より畫を好み、上藤左鳳、毛内雲林、今村溪壽等の影響を、更に儒學、佛學に通じた。天保八年家督と稱し、讓り畫業とて父筆を尊念。安政二年津輕藩の整藩地松前に移す。元治元年知友鶴屋有筋の紹介により平田鐵胤に入門。明治四年自宅の寺十座を崩し、十兼を教授、九年 明治大倉書林社を創設し、自ら作畫を大膽にすすむ。

『合浦山水観』 森山泰太郎解説、昭和六十二年三月七日青森・弘前図書館後援会）がある。

